

根津鋼材

八潮(埼玉)に新物流拠点

運送を統括管理、シャワー加工も

有力コイルセンターの根津鋼材(本社・東京都荒川区、社長・根津訓光氏)は、置場能力拡張や輸送面の効率化・機動力強化など物流最適化を戦略的に推進する。その一環で新たに「八潮物流センター」を開設。運送部門に関するグループ統括拠点として運用するほか、ここに八潮、浦安両事業所からシャワーリング機を1台ずつ移設し、シャワー材置場と切板加工・製品出荷ヤードとして活用する。▼6面「流通加工」版に関連記事

八潮物流センター コイルセンター拠点の(埼玉県八潮市)は、八潮事業所の目と鼻の先に新設した。約1600平方分の敷地内に825平方分の建屋を建築。構内はシャワー切断と材料・製品置場として活用し、屋外はトラックの待機場所を確保した。事務所内では、主に関東・中部圏におけるグループ運送部門の統括管理を担う。

きめ細かく対応する上、確保、さらには物流コスト材料および製品の置場能力を拡張し、納期したドライブ・満足度向上などが急務となり、対策を講じていた。同社は薄板サブライ

チェーンにおける加工・置場・輸送の中間機能としての「物流最適化」を経営戦略の重要テーマのひとつに位置

つづける。現在、運送子会社の小山運輸を含め車輦保有台数は36台。これを将来的には50台規模に増やそうとの中期計画もあり、10月から稼働した八潮物流センターが、その集中コントロール・運営の中核機能を果たすことになる。

同社は関東(八潮、浦安、相模原、青梅)、中部(豊科)、東北(須賀川、長沼)にコイル加工拠点を有する。物流拠点は、八潮以外にも岩手県北上市に「北上物流センター」を構え、東北エリアを担当する。



「八潮物流センター」⑥、シャワー母材、切板製品、シャワー設備を設置した構内

近傍する八潮事業所はもとも敷地が狭く、構内に拡張余地もない。その一方で同社は近年、特に関東地区で業容を拡大。これに伴って顧客ニーズに

顧客ニーズに

根津鋼材

原コイル保管能力拡充

3拠点で計340本分増加

根津鋼材は、関東地区コイルセンター(C)拠点におけるスリッター加工の効率化と原コイル保管能力拡充を進める。

様などを考慮した上で浦安、相模原、青梅の各事業所で代替加工を担っていく。



原コイル保管スペースを広げていく(青梅事業所の在庫ヤード)

10月末で八潮事業所の大規模スリッターラインの操業を停止し、設備撤去を決めた。八潮の大規模加工量は直近で月産1800ト程度。11月以降は向浦安事業所のシャワー

スリッター2台とミニレベラー1台となる。近傍する八潮物流センターのシャワーリング機2台と合わせ、八潮地区は同社の二次加工専門拠点となる。

